



木曽林務課だより 6月

ハルゼミの鳴き声がシャワーのように降り注ぐさわやかな王滝村有林での王滝中学校として最後の育林作業の様子を紹介します。

王滝中学校最後の育林作業 「ふるさとの大切な森をクマから守る」

梅雨を間近に控えた6月9日、晴天の中、王滝中学校の生徒9名と先生、王滝村議会の議長さんはじめ議員さん、役場職員の皆さん合わせて30名が「クマ剥ぎ防止のテープ巻き」を実施しました。



朝の会であいさつと作業の確認

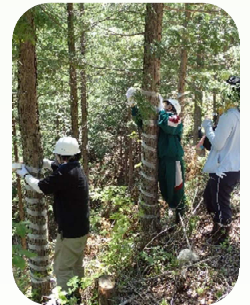
急傾斜地での地道な作業に「滑る～」 「テープがうまく止められない。」と苦戦していた生徒も、数をこなすうちに慣れてきてきれいに巻けたと自慢していました。



中学の先輩から丁寧に指導を受けて作業開始



1本でも被害が少なくなるように思いを込めてテープを巻きつけました



王滝村は村の面積の97%を森林が占め、森林が住民の生活と密接に関係していることから、中学校では森林の大切さや守り育てる体験を村議会との合同作業として平成24年から毎年実施してきました。

その中学校も年々生徒が減少し、現在は1～3年生合わせて9名となり、来年度から木曽町中学校に編入されることになりました。

育林体験も今年が最後、長年指導してきた村会議員の皆さんや役場の職員も感慨深く作業の指導をされていました。

生徒も皆さんも、育林体験を通じて体感した森林の大切さを忘れることなく、後輩に繋げてくれるものと思います。



残雪の御嶽山をバックに笑顔で記念撮影
「皆さん、お疲れ様でした」